

	<p>山形県木材産業協同組合 〒990-2473 山形市松栄 1-5-41 TEL.023-666-4800 FAX.023-646-8699 URL:http://www.mokusankyo.com E-mail:yamawood@mokusankyo.com</p>
---	---

目次	1 木材利用ポイント申請 1050 件突破!!	6 木産協慶弔規定について
	2 合法木材研修会を開催	7 会議・研修・イベント案内
	3 人工乾燥材生産状況	8 東日本チェンソーアート大会
	4 コーディネーター研修成果報告 (第8弾)	9 木質バイオマス発電状況
	5 新規組合員の紹介	10 住宅着工数等



1 木材利用ポイント申請 1,050 件を突破!!

(1) 木材利用ポイントを巡る状況

9月末日をもち、該当住宅の着工期限(契約書日付でも可)が終了し、今後は、来年5月末日までの、完成住宅のポイント申請に力点が移ります。

本県では、これまで、1,000件を超す申請が寄せられ、関係の皆様にご礼申し上げます。

該当する完成住宅は、まだまだ沢山あり、現在の2倍の申請は可能と判断しております。

完全な写真が無い等で、断念した方もいると聞いていますが、工夫することで、これらの課題の大半はクリアしております。諦めずに、ポイント窓口にご相談下さる様をお願いします。ポイント事務局は、ポイントの獲得に向けて、最後まで皆様をお手伝いいたします。

(2) 県内での受付件数(9月末日)

(Pはポイント数)

窓口名		昨年8~7月	8月	9月	合計	割合%
木産協	件数	356	32	24	412	39
	P数	107,939,000	10,084,000	7,500,000	125,523,000	-
建設労組連合会	件数	44	8	1	53	5
	P数	13,433,000	2,530,000	300,000	16,263,000	-
山形建設労組	件数	130	4	8	150	14
	P数	33,178,000	1,200,000	1,751,000	36,129,000	-
金山町森組	件数	33	3	6	42	4
	P数	8,945,000	900,000	1,309,000	11,154,000	-
米沢建築組合(連)	件数	55	5	14	74	7
	P数	16,311,000	1,500,000	4,240,000	22,051,000	-
田川建設労組	件数	114	17	16	147	14
	P数	37,785,000	5,043,000	5,605,000	48,433,000	-
酒田飽海建設労組	件数	135	24	10	169	15
	P数	40,422,000	6,967,000	3,055,000	50,444,000	-
やまがたの木乾燥センター	件数	4	1	2	7	1
	P数	1,200,000	300,000	600,000	2,100,000	-
計	件数	879	94	81	1,054	100
	P数	259,213,000	28,524,000	24,360,000	312,097,000	-

(2) 木材利用ポイント広報公募事業(第5次)について!!

木材利用ポイントに関する広報公募事業について、8月5日に、東京都平河町の砂防会館でプレゼンを行い、国土緑化推進機構より認定され、本年度も取り組むことになった。これは県ポイント協議会と山形新聞社、山形アドビューロとの連携事業である。

本年度の特徴としては、木材利用ポイントが9月末の着工を持って一段落し、施策の中心がポイント申請数の拡大から、地域材利用の拡大に向かうようになったこと、また、イベント開催のエリアやターゲットを絞り込み、比較的若い層を対象とすることになったことなどがある。これまでの本県での取り組みは 斬新なものが多かった自負しているが、今回は次の内容を予定している。

	取 り 組 み 内 容	月 日
1	○子育て世代の体感バスツアー 住宅建築の際に重要な役割を果たす女性をターゲットにした、森林から建築現場に至るまでの見学会を行い、地域材活用の認識の向上を目指す。 上山市の森林(国有林)、プレカット工場、新築住宅(山形市内)など	10月9日
2	○「木の良さ訴求+バスツアー再録」新聞記事	10月中旬
3	○「第24回山形県林業まつり・やまがた環境展2014特集ページ」新聞記事	10月24日
4	○第24回山形県林業まつりでのPR(山形県総合運動公園内・天童市) 地域材を活用した構造躯体の展示(ムク材、集成材、大断面など)及び木材利用ポイント等の住宅建築相談コーナー、木材クイズ等のコーナーを設置する。(クイズ参加者や相談者などに木製記念グッズをプレゼントする)	10月25 ~26日
5	○やまがた環境展2014でのPR及び展示ブースでのPR(山形ビッグウィング・山形市) 地域材を活用した構造躯体の展示(集成材など)及び木材利用ポイント等の住宅建築相談コーナー、木材クイズ等のコーナーを設置する。(クイズ参加者や相談者などに木製記念グッズをプレゼントする)	10月25 ~26日
6	○フリーペーパーによるPR 若者の購読者が多いといわれるフリーペーパーを活用し地域材の普及を図る。	11月上旬
7	○林業まつり・環境展再録、木の良さ訴求、大型ショッピングでの取組みPR新聞特集	11月中旬
8	○大型ショッピングモールでのPR(イオンモール山形南店) 会場の木質化「木のある空間」の演出および木製品の寄贈式典及び山形出身の人気コメディアン「テツ&トモ」による地域材使用の意義や木遣いの大切さや、本県特産となっている「ケン玉」によるパフォーマンス等により木製遊具のPRを行う。 木製品の寄贈等について、県内の製造メーカーと調整の下に確保する。 また、電子掲示板・デジタルサイネージによる中期にわたる地域材のPRを実施する。	12月28日 (日) 14時頃から
9	○木材利用ポイント申請の掘り起しについては、昨年4月~今年9月末まで着工し完成した物件の申請について、工務店にダイレクトメールで強く働きかける。(複数回)	9月~12月

※ 開催時期等について変動する場合があります。

2 平成26年度合法木材研修会を開催!!

去る、9月19日(金)、山形市内のホテルキャッスルを会場に、標記研修会が開催され41名が受講した。

合法木材事業者認定要件に、新規・更新認定時の研修会の受講が規定されていることから、該当者の大半は受講し、修了書を授与された。

この度の研修に事情により出席できなかった方については、認定要領の中で、後日、「特別講習」を行うことが可能となっており、資格の取得が絶対必要かどうかを確認し開催を決めることにしている。

この度の研修の概要は次のとおりである。

(1) 合法木材制度の仕組みと実際(説明・木産協)

- ア. 合法木材制度立ち上げの背景、イ. グリーン購入法等の国内外の取り組み、
- ウ. 林野庁ガイドライン、エ. 業界団体認定方式、オ. 県木産協の認定実施要領、
- カ. 分別管理等責任者の役割、キ. 実際に利用されている納品書・証明書の事例、
- ク. 合法木材実績報告の記載方法等

(2) 「現代の木材流通を巡る課題」(講演会)

講師 筑波大学大学院生命環境科学研究科 准教授 立花敏氏

- ア. 日本の森林資源、イ. 森林の取扱い、
- ウ. 持続可能な森林経営とトレーサビリティ、エ. 合法木材の課題、
- オ. 木材需給と木材流通の方向性、木材貿易の方向性、流通を巡る重要点等

※ 木産協では、認定研修等の際には、全国的状況の把握や幅広い視点を持っていただくために、著名な講師をお呼びし、研修内容を充実させています。また、今回も、認定の為に受講が必要な事業体以外にも、「講演会」のみのご案内を差し上げています。

※ 今後の講演会等については、木産協設立40周年記念事業の一環で、式典や講演会等も検討中ですので、その節は、是非ご参加下さるお願いいたします。



(立花先生の講演状況)

お報せ!! 第38回全国育樹祭の関連行事に参加しよう

全国育樹祭については、10月12日に、皇太子殿下のご臨席を賜り、金山町の「遊学の森」で開催されます。健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるために、昭和52年から毎年秋季に行われている国民的な緑の祭典です。

全国植樹祭において天皇皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされるという育樹運動のシンボリック行事と、皇族殿下によるお言葉や各種表彰等の式典行事のほか、参加者による育樹活動等の行事が行われます。当日の式典の参加申し込みは既に締め切っていますが、次の関連行事に参加しましょう。

「2014 森林・林業・環境機械展示実演会」(入場無料)

期日 10月12日(日)~13日(土)

会場 新庄中核工業団地内(新庄市大字福田字福田山)

内容 出展機械 約500機種



3 人工乾燥材生産状況

人工乾燥材生産施設の整備の検討が始まる等、乾燥材を巡る状況が大きく変化しようとしている。この度25年度の生産状況調査の概要がまとまったので報告する。

対象工場は乾燥施設を備えている21社。(うち1社は生産無し、4社は天然乾燥のみ)

(1) 乾燥材生産量 (国産材)

区 分	乾燥材全生産量	内人工乾燥材	内天然乾燥材	摘 要
H25年度(m3)	19,312	15,266	3,992	
前年比(%)	109	106	118	

※ 自社製材品は全体で、56,186m³であり、乾燥は自社製材品を中心に行われたと考えると、割合は34%程度であり、昨年度と同水準であった。(他の購入製品は8,137m³)

※ 乾燥材は着実に増加しており、特に、生産量の大きい10社が増加し、生産量の比較的小さい4社が横ばい、同様の6社が減少している。

(2) 出荷している材の平均含水率

区 分	人工乾燥材			天然乾燥材		
	構造用	造作用	下地用	構造用	造作用	下地用
件 数	14	16	14	12	14	13
平均含水率(%)	21(21)	17(17)	19(21)	24(27)	20(23)	23(25)

※ 全体的に人工乾燥材の含水率が低い傾向にあり、所定の含水率まで落とす方法として適していると考えられる。構造材は20%以下が望ましい。()は昨年度の平均含水率。

(3) 人工乾燥室1室あたりの年間平均生産量

年 度	乾燥室総数	1室あたりの平均生産量	摘 要
H23年度	34	382m ³	
H24年度	32	455m ³	
H25年度	33	481m ³	

※ 耐用年数等の関係で使用を中止した乾燥室がある一方で、自社乾燥から委託乾燥への変更や、大規模工場の施設増強等があり、構造の変化が急ピッチである。施設の稼働率も高まっている。

※ 全ての製材工場における乾燥施設の設置には、品質確保要員の配置や稼働上の課題があり、施設の集中運用等の方法を検討すべき時期にある。

(4) その他

ご多忙の中、調査にご協力いただいた工場各位に御礼申し上げます。この調査は、毎年実施し、乾燥材生産に関する状況や課題を探り、解決にむけた基礎資料として活用されるものです。人工乾燥施設等を有し、ご協力いただける工場等がありましたら木産協までご連絡下さる様お願いします。乾燥をばじめとした木材製品の品質確保は、業界内部の競争のためではなく、他の資材との競合に打ち勝つためにも必要です。「安売り」や「特需」での経営拡大では無く、品質やグレードで勝負する視点を是非お持ちいただきたいと思います。

4 地域森林経営コーディネーター育成研修成果報告(第8弾)

相原木材株式会社 相原吉郎

私は一般の木造住宅だけでなく、大型の木造建築が建ち並ぶ「木造都市®」を実現するには、我々製材業の立場から何ができるか、何をすべきかということテーマに一年間研修をやらせて頂きました。私は「木造都市®」はもうすぐそこまで来ていると強く感じています。それは、山形県にいても感じられる程です。

例えば、県内企業で全国的技術を有する(株)S社は、東北で最初の防火地域における木造耐火の大型店舗建築「七日町御殿堰」、また現在、南陽市には国内初の大規模の耐火木造ホールを建設中です。少し前までは考えられなかった木造の大型建築が実際建っているのです。

それでも木造の大型建築は世界、特にヨーロッパの国々に比べるとまだまだ遅れているようです。例えば、イギリスには木造の9階建てのビル(1階はRC、2階以上がCLT)がすでにありますし、その他にもスイスには「タメディア」、スペインの「メトロポール」、フランス、メスの「ポンピドーセンター」等があるそうです。どれも日本にはまだない大型木造建築です。日本の木造建築は大型の建物に関しては遅れていると言わざるを得ません。

しかし、前にも述べてのように、ようやく日本の厳しい法律でも、県内企業である(株)S社の有する耐火技術により「木造都市®」の可能性は更に高まっていると感じます。

そこで、じゃあ我々の製材業はこれから何をすべきなのかということになります。

私はまずJASが重要になってくると考えます。大型の建物ならば安心・安全の面、更には常に良質な製品を提供する為にも明確な基準が定められたJASは絶対必要です。我々が良い製品を提供すればするほど、木材の価値は高まるのです。

そして二つ目に、私ならば乾燥をあげます。最近是一般の住宅等でも乾燥材が当たり前になってきました。頂く注文もほとんどKD材になっています。木材製品に求められる「寸法」、「材質」、「強度」のいずれも、乾燥が大きく影響します。

そこで私は昨年10月に静岡県にある大井製作所さんを訪れました。そして実際に最新の乾燥設備を見学させて頂きました。中でも中温減圧の乾燥機は高温のものに比べて、木材本来の色艶や柔らかかみが残せてとても好感を覚えました。また高速で製材できる帯鋸を開発したようです。試験挽きしている映像を見て大変驚きました。当社の何倍ものスピードで丸太を割っていくのです。

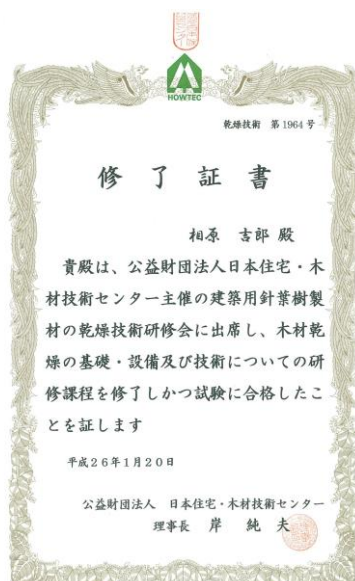
また翌月には、東京で3日間にわたって行われた「針葉樹製材乾燥技術者研修会」を受講し、乾燥について学ぶことができました。それと同時に木材乾燥の大切さを再認識することができました。

現在、木造建築はもの凄い勢いで進化しています。そして乾燥機はもちろん、その他の設備もかなり進化しています。私がこの一年を通したOJT研修で一番強く感じたことは、乾燥も含めた製材技術のレベルアップが今後必要だということです。最近、お客様からの注文も高い技術を要するものが増えてきたように感じます。その要求に応えていく為にも我々も成長していかなければなりません。

どうレベルアップしていくか。それは私の場合、「木造都市®」を目指す第一歩として「乾燥」を選びました。しっかりとした乾燥技術、乾燥についての知識を得ることが木材、または木造建築の長所を活かせると思ったからです。

そして製材技術にも目を向けていかなければなりません。木造ブームともいえる今、製材にはスピードと正確さのどちらも問われます。つまり作業の効率化を図り、JAS規格にあるような徹底した品質管理のシステム作りを続けていかなければなりません。そこで不足を補う、尚且つお客様の要望に応えることができるような設備投資を今後模索していこうと考えています。

最後になりますが、この一年を通したOJT研修は私にとって、とても素晴らしい経験となりました。そして、今後もこの経験を活かし「木造都市®」実現のために頑張っていきます。



研修状況及び
針葉樹製材乾燥技術
研修会修了書

5 新規組合員の紹介

高橋林業 (南陽市金山)

代表 高橋浩一

この度は、山形県木材産業協同組合に入会させていただき、誠にありがとうございます。私どもは、個人経営で、地元を中心に営業活動をさせていただいております。

素材を山林から伐採・搬出し、製材所又はパルプ会社に納入する仕事です。

また、25年前から薪の生産販売に力を入れ、山形、仙台方面に販売し、経営の安定化を図っております。今後の経営方針として、木質バイオマスを使い、農業とのコラボレーションに力を入れ、経営に勤しんでいき、地域に根差した企業になりたいと思っております。

今後とも、会員の皆様のご指導・ご助言をいただきながら、学んで行きたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

佐藤製材所(高畠町二井宿)

代表 佐藤祐一

この度、協同組合に加入させていただくにあたり、理事長様をはじめ関係の方々にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

私は、「たまご」からの製材工(職工)です。この40年間、県森連の原木市場に通って様々な事柄を教えていただきましたが、これまで深く考えることなく仕事をしてまいりました。

この機会に、様々な研修会に積極的に参加し、学び、大自然の中で小川のせせらぎや小鳥のさえずりを聴き、森林浴を楽しみながら、少しずつ山への恩返しをしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

6 山形県木材産業協同組合の慶弔規定について

山形県木材産業協同組合には慶弔規定があり、次のようになっております。

全県で発生する慶弔事案について、木産協事務局では把握しきれないところがあり、情報の収集が遅れ、大変失礼な対応となっている場合があります。

つきましては、次の規定により、木産協として組合員の慶弔に対する表明を行うことになっておりますので、組合員各位は、遅滞なく情報をお寄せ下さる様お願いいたします。

(特に、支部長、理事の方はご留意願います。) なお、この規定は、平成8年に理事会で決定されたものです。

山形県木材産業協同組合慶弔規定

山形県木材産業協同組合の組合員(以下「組合員」という。)の慶弔費の支出の基準を次のように定める。

1	死亡	組合員	香典	10,000円	(花輪有り)
		組合員の配偶者、先代	香典	5,000円	
2	病 気	組合員1か月以上の入院	見舞い	5,000円	
3	事 故	組合員が重症の場合	見舞い	5,000円	
4	結 婚	組合員またはその後継者で組合に案内があった場合			
			お祝い	10,000円	
5	火災(天災を含む)	全焼、全壊の場合	見舞い	10,000円	
		半焼、半壊の場合	見舞い	5,000円	
6	選 別	役職や組合とのかかわりの濃淡により			5,000～10,000円
7	その他	この基準により難しい場合は、関係者との協議の上理事長が決定する。以上。			

7 会議・研修・イベント等案内

(1) 第24回山形県林業まつり

県民の皆様に着した、林業・木材関係の最大イベント、「林業まつり」が始まります。

ア 期日 平成26年10月25日(12時～16時)～26日(9時～15時)

イ 会場 山形県総合運動公園南側駐車場(天童市山王1)

ウ 内容 木造住宅のモデル構造の展示、各種クラフト体験コーナー、郷土の特産市等
愛知県からは「木の枝」を材料とした「オカリナ」づくりの名人もやってきます。
震災復興関連では、福島「フラダンスグループ」宮城の「海産物」等もあり。
別添チラシを参照ください。(ご近所にも配布願います)

(2) やまがた環境展2014

環境の時代を切り拓く標記イベントに、木産協組合員のご協力の下に、自然素材の代表的存在である「木材」関連の展示やクイズ等によるPRを行います。「林業まつり」と同期日の開催ですが、こちらのイベントにも、是非、お顔出し下さる様ご案内いたします。

ア 期日 平成26年10月25日(10時～17時)～26日(9時～16時)

イ 会場 山形ビッグウィング(山形市)

8 第38回全国育樹祭プレイベント

第9回東日本チェーンソーアート競技大会が盛大に開催される!!

最上総合支庁森林整備課

7月27日(日)に、山形県金山町のグリーンバレー神室と遊学の森において、第9回東日本チェーンソーアート競技大会が約600名の来場者を迎え開催されました。今回は、今年金山町で開催される第38回全国育樹祭へ向けた気運を高めるためのプレイベントとして位置付けての開催となりました。

大会には、遠くは愛知県から、腕自慢のチェーンソーカーバー(チェーンソーで彫刻をする人)14名が集結し、雨交じりの悪天候の中、壮絶なバトルが繰り広げられました。

本大会は、スギの伐根部分などこれまで利用されていなかった木材を活用して新たな価値と魅力を創り出し、山村地域の活性化や自然環境の保全を推進することを目標として、平成18年から毎年金山町遊学の森で開催されています。

○豊かな発想と完成度が問われるメインカービング

第9回大会は、「間伐材等を用いた実際の生活に活用できる作品」を大きなテーマとしました。大会のメイン競技であるメインカービングは、グリーンバレー神室の特設会場で行われ、14名のカーバーによる3時間に渡るバトルの結果、ベンチ、プランター、イス、花台など様々な作品が仕上がりました。それぞれの作品にはカーバー本人により2~8万円の値がつけられ、作品を前にカーバーと購入希望者の白熱した値段交渉が行われていました。中には、仕上がりを待たずに、製作途中から値段交渉を行っていた方もいたようです。



○想像力とスピードが問われるバトルカービング

メインカービングの他に、限られた時間でその腕を競い合う「バトルカービング」も行われました。予選会は、30分で課題フリーの1作品を彫りあげる形式で行われ、5名が決勝に残りました。

決勝は、東日本チェーンソーアート競技大会の聖地である遊学の森に会場を移して行われました。競技時間は予選と同様30分と非常に短いうえに、課題は会場からのリクエストとあり、カーバーの想像力とスピードが試される競技です。選ばれた課題は、カメ、ペンギン、パンダ、ドラゴン、ウマ。カーバー達は大弱り。



しかし、そこは各地の競技会を勝ち抜いてきた猛者達だけに、一度チェーンソーを握ってしまえば、豪快なエンジン音を響かせて、動物の形や毛並み等の細部に至るまで細やかに表現し、その様子を見ていた観客は、徐々に出来上がって行く作品を驚きの表情で見つめていました。決勝に残った5名の作品は、ジャンケン大会で会場の参加者にプレゼントされました。

○来年は第10回の記念大会

来年は、第10回の記念大会となります。これまでにない規模と企画で皆様をお迎えしたいと考えておりますので、どうぞご期待下さい。(この記事は最上総合支庁森林整備課から執筆いただきました。)

9 木質バイオマス発電の取り組み状況

(1) 鶴岡木質バイオマス発電の状況

鶴岡市下山添にある庄内南工業団地に、木材チップ加工工場及び管理事務所の建設が始まった。これに先立ち、7月の末から隣接土場に、木質バイオマスの集積が開始され、9月20日現在で、約14,000m³が集荷されている。しかしながら、計画数量の1/4程度であり、このペースでいけば翌年2月の段階でも3万m³と、計画の約6割しか見込めないことになる。これらの要因としては、木質バイオマス発電は新しい需要であり、供給のためトラックの手配がつかないこと、積み下ろし機の納期が全国的に遅れていること、バイオマスの買取価格交渉に手間取りかつ工場周辺の土場の確保が遅れたことなどがある。

それらについては、次第に改善されつつあり、11月以降は原則毎日の受け入れが可能となると言われている。

一方、年間必要量については約4万トンといわれており、来年度秋季に稼働するとなると、現在集積されている分で来年度分をほぼ賄えることになり、現時点でこれ以上保管するかどうかは微妙な判断が求められることになる。

発電関連施設の整備スケジュールは、10月に管理事務所完成、11月から発電所基礎工事開始、3月に機械設置開始、9月に試験運転としている。

木産協では、庄内地方の組合員を中心に6社が供給しており、現在、約2,500m³を納入し、2月一杯で約1万m³の納材を計画している。これらの材は、各事業者から証明書付きで木産協が一括して取りまとめ、合法木材証明による「間伐に由来する材」である証明を付けて納材している。



(バイオマス集積状況)



(管理棟建設状況)

(2) 置賜木質バイオマス発電の状況

置賜地方でも約1年前から検討が進められてきたが、9月5日の置賜木質バイオマス協議会で、発電事業者から、施設の見積もり価格が大幅に上回ったことから、現在の木質バイオマス発電電力の買取価格では採算割ることがわかり、再度コスト計画等の見直しを図るために、本年度事業は全てリセットすることになり、補助金を取り下げるようになった。

今後も、様々な条件を見直し計画を練り上げるとしている。

当面の間、関係団体が山土場等に準備した木質バイオマスについては、系列会社の(株)山形グリーンパワー(村山市)で、一定価格で引き取るとしており、木産協組合員は、準備していた分の納材を開始している。この場合も、各事業者から証明書を付けて木産協が一括して取りまとめ、合法木材証明の「間伐に由来する材」である証明を付けて納材している。

8月期住宅着工状況

平成26年8月期の県内新設住宅着工戸数は、対前年同月比80%の361戸となった。利用別では、持223戸で66%、貸家90戸で150%、分譲住宅45戸で92%となっている。全国的に8月期は当月及び累計とも前年比12%程度の減少となっている。木材利用ポイントの着工期限（契約月日も含む）もこの9月末で終了し、来年5月末までの、完成・リフォーム住宅の掘り起しに力点が移ったが、厳しい状況の中で、この一年間のトレンドを把握し、施主様の便宜を最大限図られた施工・木材供給事業者の次の一手に注目したい。